

宙吊り型イチゴ用出荷容器による輸送性向上効果

宙吊り型イチゴ用出荷容器を利用することで、果実の損傷程度を大幅に軽減することができ、輸送性向上

背景・目的

- ・イチゴ新品種「鹿児島6号」(品種登録出願公表:平成30年6月15日)を育成
- ・「鹿児島6号」は鹿児島市場向けや観光農園などでは収量性および良食味について高い評価
- ・名古屋向けなどの遠距離輸送においては品質低下が危惧
- ・振動試験機による輸送性評価方法を検討し、併せて、宙吊り型イチゴ用出荷容器による輸送性向上効果の解明

成果の内容

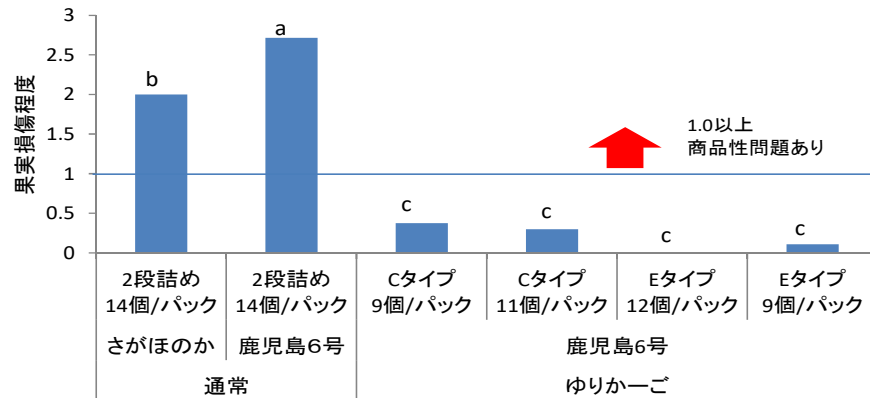


図 宙吊り型イチゴ用出荷容器が果実損傷程度に及ぼす影響
注) 宙吊り型イチゴ用出荷容器は「ゆりかご(大石産業)」を使用
収穫および加振日:平成30年5月8日 tukey検定により異なる英字間で有意差あり
10℃貯蔵3日後調査, 供試品種「鹿児島6号」
果実損傷程度 0:損傷なし, 1:傷跡, 2:打ち身, 3:程度の大きな打ち身, 4:カビの発生

宙吊り型イチゴ用出荷容器は通常パックに比べて有意に果実損傷程度が小さく輸送性向上効果が高い

導入メリット



ゆりかごCタイプ54.6円/パック, Eタイプ50.4円/パック

本資材を利用することによって、「鹿児島6号」の長距離輸送における果実の傷み軽減が期待

期待される効果

「鹿児島6号」の販路拡大・需要拡大

鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部野菜研究室

普及対象・範囲
「鹿児島6号」生産農家